

一般演題1-5

重症下肢虚血症例における第二種高気圧酸素療法の効果

高木 元 桐木園子 久保田芳明 手塚晶人
太良修平 高木郁代 清水 渉 宮本正章

日本医科大学 循環器内科

【目的】

重症下肢虚血において血行再建術は基本的アプローチであるが、特に膝下の潰瘍を伴う高度虚血病変に関しては成績が悪く下肢切断や死亡に至ることがほとんどである。当大学においてバイパス及びカテーテル治療が不可能であった重症下肢虚血患者（難治性CLI）に対して非侵襲的な高気圧酸素療法を行い、その効果を検討した。

【方法】

難治性CLI連続93例を登録。第二種高気圧酸素療法（HBO）を行った患者と行わなかった群に分け後ろ向きに予後調査を行った。エンドポイントは治療1年後までににおける下肢切断の有無と生命予後とした。さらにこの患者で自己骨髄単核球移植血管再生治療を行えた群（血行再建可能群）と不可能群に分け予後を調査した。

【成績】

難治性CLI加療開始後1年における生存率は全体で81.5%，下肢生存率は75%であった。HBO群は有意に生命予後を保ち（ $p=0.024$, Log-Rank Test），下肢切断も回避傾向を認めた（ $p=0.056$ ）。血行再建可能であったHBO群を単変量解析にて有意と判断された予後規定因子（血液透析，シロスタゾール内服歴，LDL値，Cr値，CRP値，経皮酸素分圧値）で多変量解析すると，LDL低値（cut off 59.1mg/dl）が独立予後規定因子であった（比例ハザード分析）。血行再建不能群は25例で一年生存率56%，下肢生存率40%だった。HBOにより生命予後は良い傾向を認めたが（ $p=0.063$ ），下肢予後に関しては有意差を認めなかった（ $p=0.636$ ）。特にHBO以外の加療が出来なかった症例に関しても生命予後維持に有効な可能性が示唆された。

【結論】

難治性CLIにおけるHBOの有用性が認められた。特に血行再建（血管再生治療）が可能な症例においては生命予後に関する有用性を認めたが、適応に無い患者においても生命予後にHBOが有用な可能性がみられ。積極的な血行再建とHBO適応が望まれる。

